ニュースリリース
報道機関の皆様へ

JA西三河

令和5年10月23日
ＪＡ西三河

全国トップレベルの反収を誇る
愛知県西尾市で冬春きゅうりの機械選果スタート
― 翌6月までに3，200㌧の出荷めざす ―

西尾市内の冬春きゅうり生産者で組織するJA西三河きゅうり部会（片山政利部会長）は、11月6日よりJA西三河あぐりセンター池田で令和5年産冬春きゅうりの機械選果を開始します。同部会は10アールあたりの収量は25㌧と全国トップレベルの技術力を誇っています。

露地栽培では夏に収穫されるキュウリですが、西尾市は加温したハウスで11月から翌年6月にかけて栽培する『冬春きゅうり』の栽培が盛んで、年間約3,000㌧を生産する大産地。今年も11月初めから徐々に出始め、11月中下旬より本格出荷を迎えます。

選果場にある〝キュウリ選果機〟は、キュウリの曲がりや太さ・長さをカメラで瞬時に判別し、等階級別に選別。パート選果員は選果ラインにキュウリを並べたり、機械により等階級に選別されたキュウリを箱詰めする作業に取り組みます。

（写真）カメラで1本1本のキュウリの等階級を判別

■取材対応日■

【日時】11月8日（水）午前10時15分集合

【集合】JA西三河　あぐりセンター池田（西尾市一色町池田東八反15）

※ 取材を希望される報道機関の方はJA西三河企画課の尾形までご連絡ください。
※ 選果時間は1時間程度、袋詰め機のようすも撮影いただけます。

【作柄】（10月23日現在）

定植は9月下旬から10月上旬にかけて行われました。定植後は大きな天候の崩れがなく、順調に生育しています。出だしの作柄は11月までの日照量に大きく左右されますが、堅調に推移しそうです。

JA西三河

【お問い合わせ・ご連絡先】
JA西三河（西三河農業協同組合）
〒445-0073　愛知県西尾市寄住町下田15
企画室企画課　広報担当：尾形
TEL：0563-56-5214　担当者携帯：070-1414-6818
HP：https://www.ja-nishimikawa.or.jp/
Eメール：kikaku@ja-nishimikawa.com

《ＪＡ西三河ホームページ》
その他のニュースリリースは
こちらからご確認いただけます

※　このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびＪＡグループ愛知記者会あてに発出しています。
また、同内容をＪＡ西三河ホームページの「報道機関向け資料（ニュースリリース）」ページにも掲載しています。

ニュースリリース　別添資料①

日本のキュウリ生産をリードする西尾市

～10ｱｰﾙあたりの収量は25ﾄﾝ！全国トップレベルの反収を誇るヒミツ～

環境測定器「あぐりログBOX」（白い箱）と、
スマートフォンで温度・湿度などを確認します

■西尾のキュウリ生産の特徴

JA西三河きゅうり部会は、施設園芸の生産者部会の中でも情報共有や技術革新にいち早く取り組み、他部会に先駆けて農業用ICTツール導入しています。部会員全員が環境測定器「あぐりログBOX」と食・農クラウド「Akisai（秋彩）」を導入。ハウス内の温度・湿度・CO2濃度の推移や、農薬・肥料の施用の情報を共有し、産地の高度化を図っています。

データを基にした部会員同士の情報交換も盛んで、若手就農者がベテラン農家並みの収量を達成することも。2014年から2018年にかけての反当たりの出荷量は15％アップしており、今年度は生産目標3,200ﾄﾝ・販売目標9.6億円を掲げて取り組みます。

今年で取組み8年目！

ＩＣＴを活用し「養液栽培※」の実証試験

JA西三河きゅうり部会は県やJAあいち経済連、種苗会社と連携を取り、農業情報通信技術（ICT）ツールを活用した養液栽培の実証試験に取り組んでいます。

※「養液栽培」とは、肥料を水に溶かした培養液で栽培する方法。
国内でのキュウリ生産は土耕栽培が主流であるため、いまだ普及していないのが現状

↓

「養液栽培」で得られた地下部の環境データを産地で共有

↓

土耕栽培へフィードバックして
部会全体のさらなる収量向上を目指します！

「あぐりBOX」が24時間集めたハウス内の環境データと、植物体（キュウリ）が吸収した水や肥料の量を把握することで、生育状況を予測して生育の最適化を実現！

西尾市では「JA西三河きゅうり部会」を組織するほか、JAあいち中央胡瓜生産部会とともに共販組織「西三河冬春きゅうり部会」を組織し、共通のブランド『三河みどり』の名前で販売しています。

【共販組織情報】（令和4年度）
名称：西三河冬春きゅうり部会
部会員数：89人
（西尾市のＪＡ西三河きゅうり部会、碧南・安城市中心のＪＡあいち中央胡瓜生産部会の２部会で構成）
出荷先：主に愛知県内の市場
出荷量：4,403ﾄﾝ（うち西尾市 2,317ﾄﾝ）
※「三河みどり」ブランドのみ（加工品用出荷等含まず）

【全国の生産概況】
全国のきゅうり出荷量：478,800ﾄﾝ　（うち冬春きゅうり：272,500ﾄﾝ）
愛知県のきゅうり出荷量：11,500ﾄﾝ　（うち冬春きゅうり：9,950ﾄﾝ）
データ：農林水産省　作況調査（野菜）令和3年産公表資料
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/

西三河冬春きゅうり部会のキャラクター
「きゅりん。」

ニュースリリース　別添資料②

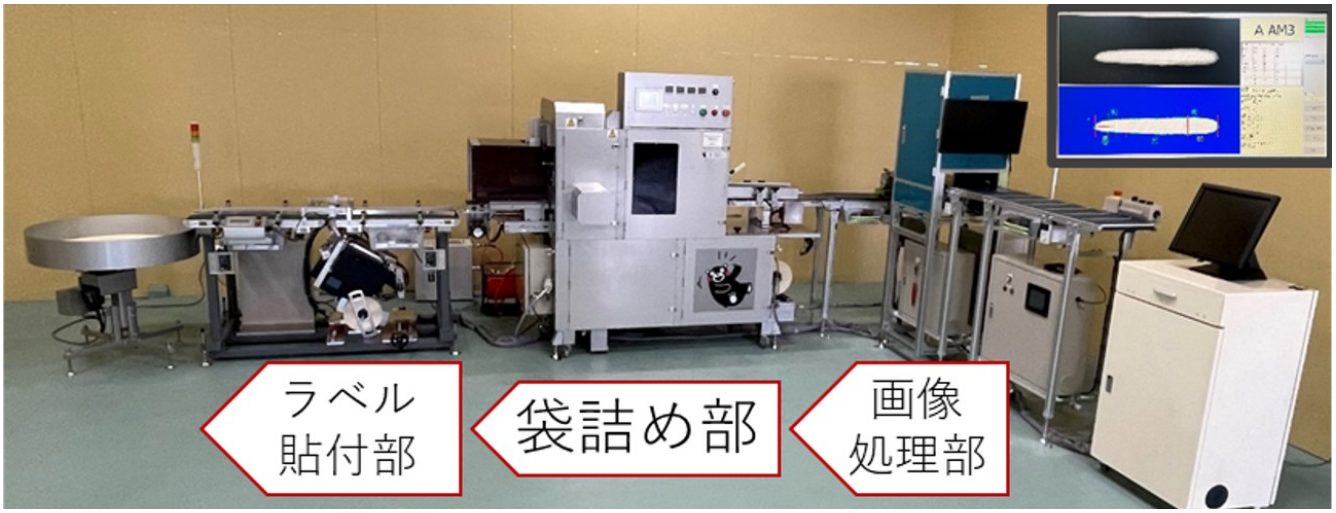
日本のキュウリ生産をリードする西尾市

～産地と消費者の距離を縮める取組～

■袋詰め機を令和３年作より導入　＼全国的にも珍しい取組／

画像処理（＋規格データの蓄積）▸袋詰め▸バックシール▸バーコードラベルまでを産地で行い、トレーサビリティを確立！

消費者ニーズの高い「袋詰め」を自動化し、高付加価値化することで収益向上を目指しています。袋詰めは一般的に小売店が行いますが、近年では産地で袋詰めを行うところも増えてきました。なかでも当産地では商品の画像処理から袋詰め、バックシール（赤いシール）、バーコードラベルの貼付までを選果場で行っており、全国的にも大変珍しい取り組みを行っています。



二次元コード付きバーコードを貼付

タッチレスで鮮度抜群！

＼産地から最高の状態で届けています／

- 販売自由度向上
- 鮮度向上
- 品質向上
- 消費者とつながる
- 栽培管理にフィードバック

Instagram　生産者おすすめのレシピを紹介

袋には二次元コードを貼り、産地情報や生産者のおすすめレシピなどを紹介！産地のキャラクター「きゅりん。」などSNSを活用して

〝顔の見える産地発信型〟

の販売実証を行っています。